

乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画－QURUWA戦略－の改訂(案)に対する意見と市の考え方

	ご意見等	市の考え方
1	街の人と市役所の方と混ざって顔見知りになれて市役所を身近に感じられる様になった。街の人と市役所の方と街に遊びに来てくれた方々と、ひとつになってイベントを作る雰囲気が良いなと思いました。	引き続き民間や地域と連携したまちづくりを推進します。
2	せっかく公共空間が整備されたのにQURUWAという言葉が岡崎市内でも知らない人や興味のない方もいるのでもっと発信していただき盛り上げていただきたいです。	「QURUWAプロジェクト⑩ブランディング&情報発信」を定め(P.11)、QURUWAウェブ等を通した情報発信に取り組んでいます。さらに多くの方に「QURUWA」を知っていただけるよう努めます。
3	中学生、高校生、新社会人といった若い世代や他府県から来た方、さらに岡崎を愛すYouTuberの意見も広く聞き入れて QURUWA戦略の認知度をもっと上げていってほしい。	公民連携まちづくりを推進することで関係者を増やしながら、認知度向上にも努めてまいります。
4	行政用語が多く一般市民には勧めづらいため、広く読みやすい形式にデザインしてほしい。	計画としての事実に近い言葉選びに努めていますが、民間や地域との連携により推進する計画であるため、広く読みやすい形式やデザインとなるよう今後検討します。
5	岡崎市役所のやりたいこと、あるべき姿は書いてあるが、それって市民が望んでいることなのか。市民がこの計画でどのようなメリットがあるのかわかりやすく書いてなければ、何のためにやるのかわからない。税金を拠出している人(市民や法人)ファーストな計画策定しなければ、市民からの評価は得られない。	QURUWA戦略について、シンポジウムやワークショップ、出前講座等で引き続き周知するとともに市民の声を取り入れていきたいと考えているため、是非ご意見をお寄せください。
6	「生活創造都市」という文言(P.4)について、QURUWAにすでに住み暮らしておられる方にとって、「生活創造」の言葉は「新たな生活を創造していくべし」と、自身の日々の生活が否定されているように響かないかと心配になってしまいました。そしてQURUWAの将来像としてその言葉が適切なのか、ということも疑問でした。 ひとつの言い換え提案ではありますが、「くらし創発都市」といった文言はどうでしょうか。「創発」という言葉は、個々の要素の足し算がその単純な総和にとどまらない特性を現すことです。 QURUWAにくらすさまざまな人たちの取り組みが寄り合わさって、ただ「いろんな人が住んでいる」という状況を超え、外の人にとっても「訪れてみたい」「自分もその輪に入ってみたい」と思わせるまち。QURUWAでいま起こっている状況はそういう種類のものであり、その循環を展開していくことがQURUWAの将来像としてはよいのでは、と考えました。そういう意図で「くらし創発都市」という文言を提案しています。 「生活創造都市」を「くらし創発都市」と言い換えたとき、それに続く「観光産業都市」の「観光」も、より地域の「くらし」に根ざし、そこで起きている「創発」に関与していくようなものに更新されていくのではないかと思います。	ご指摘のとおり、「くらし創発都市」に修正します。
7	岡崎城と家康・ジャズ・味噌の三本柱を持って岡崎市を観光地化を進めて欲しい。お城という願っても叶わない観光資源を有効に活用して、城下町や八丁味噌のセレクトショップやジャズが常に流れるアーケードなどワクワクと感動が与えられる魅力的な岡崎市の実現を願っています。	QURUWA地区は、岡崎城跡をはじめとする歴史文化資産など、魅力的な資源を豊富に有しています。歴史まちづくり・景観まちづくり・観光まちづくり、文化振興等の各種まちづくり施策と連携を図りながら、まちづくりを推進していきます。

8	計画としては、現状の数値ありたい姿(目標値)が何なのか、課題抽出、対策立案、対策実行に係る費用対効果の算出はすべき。数字を管理指標にしなければ、何をもって目標(計画策定時のゴール)を達成したと言えるのか。計画があいまいだと、最終的に苦勞するのは現場、実務者、市民。	一部の指標(QURUWA地区の新規出店数及び公共空間活用日数)はHPにおいて公表していますが、引き続きQURUWA戦略の成果や進捗状況の整理を進めてフィードバック及び市民へ公表できるよう努めます。
9	これまでの5年間の成果や効果を明示することが重要である。 1) 籠田公園周辺の事業所数や従業員数の改善といった量的な評価に加えて、開業店舗の種類の豊富さ、事業所の質の高さについても言及があると良い。 2) 岡崎の康生地区の特徴は、全国の都市再生、エリアマネジメントと比較して『自治再生』に展開している点にあると思う。具体的には、Quruwa7町連合、および次世代の会の存在に象徴される。この文言は見あたるが、その存在や成果の素晴らしさ、日本の地方都市再生をリードする、先駆的な成果が挙げられていることへの言及が見られないのが残念だ。	1) QURUWA地区での公共と民間の取組みについて、QURUWAウェブや「log」という冊子にまとめ毎年記録し発信しています。また、一部の指標(QURUWA地区の新規出店数及び公共空間活用日数)はHPにおいて公表していますが、引き続きQURUWA戦略の成果や進捗状況の整理を進めてフィードバック及び市民へ公表できるよう努めます。 2) 地域と連携した『自治再生』の取組みから、今回の改訂において、地域の立ち位置やQURUWA7町を戦略へ記載するに至りました。その一方で、グッドデザイン賞金賞受賞をはじめとする成果などは、本計画に掲載するかQURUWAプロジェクト⑩ブランディング&情報発信の中で発信するかを含め、今後成果の整理を進め検討します。
10	今後の人口減少、長寿命化、独居の増加を考えると、人を集めてつなげる力を持つ空間を住民のネイバーフッド(日常生活の身近なエリア)につくっていくことが求められていくと思います。地域の状況に応じ、住民の方々の力を引き出しながら、例えば芝生、ベンチ、図書館、公民館、コミュニティスペース、買い物施設、子育て施設などで人が集まって、つながりをつくれる、つながりを感じられる空間をつくっていく工夫ができないかと思います。地域づくりの先進地、岡崎市でも課題として認識いただければと思います。	本市としてもネイバーフッドなエリア作りが求められると考えるため、本計画による豊富な公共空間等を活かした公民連携による取組みに引き続き努めます。
11	行政と住民のコミュニケーションや情報提供の偏りがある場合、一部の住民の意見やニーズが反映されづらい状況が生じる可能性があります。そのためにも、QURUWA戦略の成果や進捗状況が適切に評価されるとともに、その結果を地域住民に適切にフィードバックすることで、情報の公平性や透明性を高められ、より包括的な意見収集や政策形成が可能になるのではないのでしょうか。 さらに、住民参加型の取り組みである点もふまえ、行政として地域間のコーディネートを行いながら、住民が主役となった地域活動を生み出していくための場づくりを行うことも、次のステップとして求められていくように感じます。	QURUWA地区の新規出店数及び公共空間活用日数はHPにおいて公表していますが、ご指摘のとおりQURUWA戦略の成果や進捗状況の整理を進めてフィードバックできるよう努めます。 また、地域の役割(P.6)として示したとおり、「行政、民間の活動と連携しながら地域自治を実現」を支援し、一部の住民の意見やニーズが反映されづらい状況にならないよう取り組んでいます。
12	国内事例を見ると公民連携の名のもとに、民間事業者丸投げとなり、収益性が優先され、公益の最大化となっているか怪しいケースもあり、そうなるリスクには十分に注意を払って欲しい。行政の関与やコミットメントを一定程度維持し、本当にパブリックマインドが維持され、公共の利益を担保できているのかを確認してほしい。合わせて、こうした関与を前提にしておかないと、行政内部に公共空間の計画、管理、活用のノウハウが蓄積されないリスクがあることも付記しておく。	民間事業者に丸投げにするだけで「予算削減だけでなく公共サービスの質の向上等の+αが実現するか否かは行政が選んだ民間パートナーによって左右される」(P.5)ことを念頭に置き、事業実施後のモニタリングを行いながら、持続可能な運営とその質の向上を図ってまいります。
13	岡崎の都市再生の特徴は、自治再生にある。また、生活価値の創造を土台に戦略推進を図るべきである。グローバルで広い視点と、それと同様またはそれ以上の位置付けで、住民の思いや活動、生活に寄り添ったローカルな視点で再生戦略を組み立てられる専門家、言い換えるとボトムアップ型まちづくりの専門家の配置も重視してほしい。	いただいたご意見を参考に、「実現する仕組み」(P.5)のとおり、今後も乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議等を通じ、様々な立場からのまちづくりの専門家の協力を受けながら事業を進めてまいります。

14	今後重要なのは、そこに参加する人たちをいかに増やすか、自分事のできるためのしかけや法則を活用し、全市民全企業のパブリックマインドが上がる施策を展開していくことである。そのためにはアクションが内輪ウケにならないような工夫（告知の仕方や募り方、アフターでのつながりなど）に投資していく必要がある。また、メインプレイヤーが次々に生まれるような環境や場を作ることによって新しい参加者を増やす仕組みを構築していけば、岡崎という町のポテンシャル（観光や産業だけではなく本質的な暮らし方の見本）を高めていけると思う。	「QP⑩リノベーションまちづくり事業」(P.11)では、事業者市民の発掘、及び都市型コンテンツの集積を当面の目標としています。QURUWAプロジェクトの中期である現在の取り組みでは、事業リノベーションスクールをはじめとし、QURUWA地区に関わる市民の増加を目指し、行政の役割である「民間が活動・ビジネスしやすい環境づくり」(P.6)に対して今後より工夫を重ねてまいります。
15	今後も、小さな政策で終わらず、組織的にも地域的にも横につながった波及を期待している。QURUWAエリア外も大切に思われていること、QURUWAが出発点の役割を担っているにすぎないとより感じられるといい。	いただいたご意見のとおり、QURUWA地区のまちづくりの目標のひとつである「敷地単位ではなくエリアの価値向上」をもとに、将来的なQURUWA地区以外の地域への波及を目指して努めてきます。
16	今以上にQURUWA地区の価値を上げるため、安定した街にするためには行政のちからがまだまだ必要だと思います。 QURUWA地区から岡崎全体をもっと盛り上げていって欲しいです。	岡崎市のこれからの100年を見据え、QURUWA地区の取組を周辺エリアや市内他地区へ波及できるようこれからも継続的に事業を推進してまいります。
17	もっと行政にも民間事業者とタッグを組みながら賑わいを作っていきたい取り組みをしていただくと良いと思います。 民間事業者との対話や市民との対話を通じて、できるだけ柔軟な対応で公共の施設や場所を活用しやすい仕組みづくりや、良い企画には市や国の助成金などを充てられるようなサポートをしてもらえると事業者や民間プレイヤーが活用しやすくなっていくと思います。	本計画では、事業者市民と連携した公民連携まちづくりにおける、行政と民間の役割を示しています(P.6)。ご指摘のとおり、「公共施設・空間の活用・開放」や「金融支援(スタートアップ、事業拡大)」等により、民間が活動・ビジネスしやすい環境の整備に引き続き努めます。
18	公民連携における行政の役割について、時代が変わり、今までの法律では対応できない空間の使われ方が必要になる場面が今後増えることが予想されます(遊休不動産活用や道路活用、軒先活用などが最たる例)。 その際に、民間だけでは突破できない部分が多いと思われるため、現行法と比較してできる・できないの判断を機械的に下すのではなく、一緒に考える、もしくは応援することを公民連携の中で、行政に期待したいと考えます。	行政の役割として「規制緩和」や「制度改正」と記載しています(P.6)。ご意見のとおり関係部署・機関とも連携しながら取り組みます。
19	当初計画のインフラ投資は概ね終了したと思いますが、行政は引き続きインフラのメンテナンスや空間の質の向上に不断に取り組んでいただければと思います。	ご指摘のとおり、公民連携によりインフラのメンテナンスや空間の質の向上に引き続き取り組みます。
20	各エリアの将来像が描かれているが、各エリアの特色を打ち出すには、各エリアに対して核となりうるプロジェクトに今一度集中投資できるような予算配分や政策意思決定が求められる。昨今、大型のハード整備は難しいが、目に見える変化を仕掛けていかないと将来像に対して、一般住民を巻き込んでいくことができないと思う。国の予算など活用して、QURUWAプロジェクトを同時多発的に迅速に展開してほしい。	これまで籠田公園・中央緑道・桜城橋・乙川河川緑地等の公共投資を行ってまいりましたが、今後「QP⑧東岡崎駅整備事業」をはじめ民間主導による投資の支援や残るQURUWAプロジェクトについても、国の予算制度を活用しながら順次取り組んでまいります。
21	今まで、数多くの有名なまちづくりの専門家にアドバイスをいただいている。社会情勢の変化が著しい中で、民間投資の機運醸成を図るためにもこれらの専門家にアドバイスをいただいくことは継続的に必要であるため、最低限、中期の令和12年度までは継続すべきである。 パブリックコメント用の資料は、専門家の重要性のアピールが弱いと感じる。現在の法制度の中で難しいことに次々とチャレンジしていることが、まちづくりの知識のない市民にも伝わり、よい相乗効果が生まれるとよい。	今後も継続して外部からの意見を取り入れながら取り組みます。また、計画としての事実に近い言葉選びに努めていますが、民間や地域との連携により推進する計画であるため、広く読みやすい形式やデザインとなるよう今後検討します。

22	QURUWAのデザイン会議は、外部の有識者の方々の知見を現場の状況にマッチした形で生かしていること、複数のプロジェクト間でコンセプトやデザインの統一性が確保されること、行政職員の人事異動など関係者の入れ替わりによるコンセプトのズレを防止できることなど多様なメリットがある仕組みだと思います。引き続き、この会議を機能させて、QURUWAプロジェクトを発展させていって、この方式を広げるベストプラクティスとして発信してほしいと思います。	ご指摘のとおり、乙川リバーフロントまちづくりデザイン会議の機能を果たし、本計画による取り組みの発展に引き続き努めます。
23	プレイヤーは市内業者になるが、そのプレイヤーの仮説に対して、アドバイザーという外の視点が加わり、課題をクリアしていくのを見かけました。そのような役割としても、アドバイザーの方々の存在はとて大きいように感じます。	「QURUWAプロジェクト⑩リノベーションまちづくり事業」を定め(P.11)、これまで事業リノベーションスクールを2年間開催し、アドバイザーからの意見を取り入れながら民間で自ら事業を立ち上げ、継続してまちづくりの一躍を担っている方もいらっしゃると思います。行政としてもアドバイザーの意見を取り入れながら、民間がビジネスしやすい環境の整備に取り組みます。
24	リノベーションスクールは、異業種との交流やお互いの強みを活かしたコラボ、新たな視点から事業を見つめることによる既存の事業内容をアップデートができる取り組みであり、市が主催することで、その参加者の質が担保される安心して参加できるので、市が主催している意義は大いにあると思います。	「QURUWAプロジェクト⑩リノベーションまちづくり事業」を定め(P.11)、今後も持続的なプロジェクトとなるよう公民連携で取り組みます。
25	QURUWA戦略は、岡崎市の中心市街地の事業者や住民にしか関係のない話かと考えていましたが、リノベーションスクールによりQURUWA地区外で活動している事業者や住民にとっても関わることが多くあることを知り、無関係ではない話なのだと理解することができました。	本計画は、「QURUWA地区の公民連携まちづくりの波及効果で、周辺エリアや市内他地区の価値・暮らしが向上し、経済循環・エネルギー循環・企業連携・人的交流を実現」することを目指しているため(P.9)、他地域との連携にも取り組んでいきます。
26	移住者向け情報がまとめられた情報サイトや移住関心層向けのイベント、活用できる補助金、相談の窓口がなく、全て自分たちで行動することが必要とされたように感じています。また、移住者と地域住民のコミュニケーションの機会が少ないため(機会があるがきっかけがなく参加することがない、もしくはお店等への来店をするがコミュニケーションを取るまでに至らないなど)、地域コミュニティの発展や継続のための更なる取り組みや、移住者向けのサポートプログラムの拡充などがあってもよいのではないかと感じました。	「QURUWAプロジェクト⑪ブランディング&情報発信」を定め(P.11)、QURUWA地区外及び市外の方も対象とした更なる情報発信に努めます。さらに、地域によるQURUWA・7町広域連合会(P.5)の取組みも発展しているため、引き続き地域と連携しながら移住者を含めた地域コミュニティの発展や継続にも努めます。
27	QURUWA地区の回遊動線の設定、駐車場の不足、宿泊施設の不足、拠点施設整備、渋滞問題など一民間事業者では何ともならないこともあります。しかし、公民が連携し様々な問題に向け解決するからこそ、有益な情報・施設・整備が行われると思います。	行政だけでも解決できない課題が数多くあり、公民連携によるまちづくりを推進しています。引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。
28	QURUWA地区内の回遊について、無人の電動モビリティバスの導入や国道一号の高架などは未来的で将来像として良いかと思います。また、電動自転車や電動キックボードのレンタルは一般的になってきたり、市内外の車の受け入れなどで立体駐車場などは、公共か民間かはあれど検討が必要かと思います。	QURUWA戦略として、整備されたまちなかの回遊性向上の重要性から、「QP⑪回遊支援事業」を位置づけました(P.11)。本市においても電動自転車のシェアサイクル事業は2017年より公民連携事業として実施しています。また、駐車場の集約化や配置適正化についても関係機関や民間事業者と意見を交わしながら進めていきます。

29	「各種まちづくり施策」にゼロカーボンシティが追加されたことは、QURUWAだけでなく岡崎市全体にとっても大切な要素だと考えます。単なる創エネ政策でもなく、森林の二酸化炭素吸収とセットにしたゼロカーボン政策でもなく、きちんと建物の高気密高断熱による省エネを推進するとともに、ここに地産材を活用することで、乙川流域での地域循環が具体化します。こうした動きをQURUWAで先行的に実施すると、この動きは自ずと市全体に波及していきます。それぞれのQURUWAプロジェクトでも検討されるべき要素だと考えます。積極的に推進することを期待します。	気候変動という地球規模の課題の解決に向け、脱炭素社会の実現が重要となり、国が選定する先行的なモデルとして取り組む地域(脱炭素先行地域)として、QURUWA地区内にある7町が選ばれました。関係者等と連携を図りながら、本市のモデルとなる取組を実施するとともに、公民連携手法等のプロセスをしない他地区に波及させていきます。
30	籠田公園を中心会場にし、シネマの上映、アートフェスの開催、環境啓発イベントなど、地域が盛り上がる街ぐるみのテーマイベントを開催したいと考えています。空き店舗、空き地も一時的に活用できるようにし、QURUWAへの出店検討事業者が気軽に参加できる場を作るものです。人が集うきっかけづくりをし、定期的に街を歩く人を増やします。 〈目的〉街の魅力づくり、移住者誘致、空家・空き店舗の活用。 〈方法〉地元の有志で実行委員会を作り継続的に運営できるような仕組みを作る。中心スタッフには活動費からサポート費用を支払い、負担軽減に努める。 〈費用〉移住促進、観光事業、駐車場収益等より提供希望。	「民間が活動・ビジネスしやすい(稼げる)環境の整備」(P.6)に引き続き取り組みますのでご相談ください。ご指摘の内容についても認識しながら、今後の事業の参考にさせていただきます。
31	QURUWA地区内に中学生、高校生が遊べる場所がもっと欲しいです。	これまで公共空間の整備に取り組み、多様な世代の方が過ごす姿を見られるようになりました。今後も公民連携によるまちづくりを推進し、多様な世代の方の暮らしの質の向上を目指します。
32	今後も安心して子育てや生活が出来るまちづくりをしてもらいたいです。	「子育て世代を中心とした日中の過ごし方をを充実させるローカルコンテンツの集積」を将来像とする東岡崎駅の再整備など、引き続き多様な世代の暮らしの質の向上を目指します。